

すくすく・学童指導員 20年ぶり正規採用実現！



「子どもの権利条例」
制定へ

昨年の11・12月議会を通じて、日本共産党が保護者・区民と共にねばり強く要求してきたすくすく・学童指導員の正規採用が20年ぶりに実現し、さらなる時間延長も検討の運びとなりました。新年度の児童相談所（はあとポート）開設に合わせて、前議会で日本共産党が提案した「子どもの権利条例」の制定、給食費値上げに伴う負担軽減も実施されます。子どもの幸せのための地道な努力が実りました。この議会では「災害対策」や「教育行政」をはじめ切実な区民要求を取り上げて奮闘しました。

台風19号を教訓に 災害対策について質問

1 江東5区の広域避難について

【質問】 江東5区（江戸川・墨田・江東・足立・葛飾）の広域避難計画では公表することになっていた「共同検討開始」を、なぜ公表しなかったのか。

【答弁】 パニックの回避に努めたが課題が見えてきた。実態に合った形で見直したい。
※再質問では、250万人の命を守ることが目的であり、党派を超えて知恵を出し合うことを呼びかけました。

2 「新中川以西」の避難情報の改善を

【質問】 今回「避難勧告」の対象地域を「新中川以西」などと表現したことは多くの区民に困惑と混乱をもたらした。避難地域の表現は改善の検証が必要ではないか。

【答弁】 簡潔、明瞭な表現が求められる。ホームページなどで町名を示すなどフォローしている。「新中川以西」はどこかなどを周知することに対応したい。

3 「防災ラジオ」の普及を

【質問】 「防災無線が聞こえなかった」「何を

言っているかわ

からなかった」は、いのちに直結する問題。中央区・港区で実施している戸別受信機（防災ラジオ）の普及を。



（港区の受信機）

【答弁】 防災行政無線をメインに、ラジオ、スマホ、テレビで補完していきたい。ラジオだけに公費を入れるわけにはいかない。
※普及に消極的な姿勢についてただしました。

4 「避難所」のあり方について

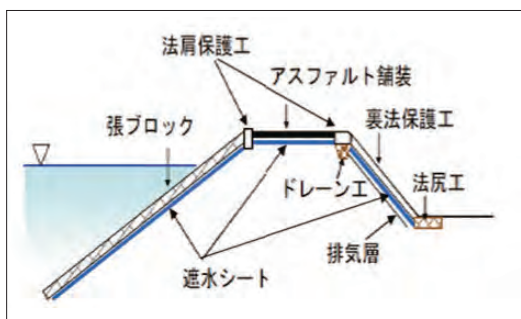
【質問】 ①水害対応の避難も基本に②情報提供の格差③避難者の受け入れの基準④プライバシーの確保⑤ペット同行避難のルール⑥避難所のバリアフリー化。

【答弁】 ①水害に対応したマニュアルもつくる。②運営が統一できるように詰めていきたい。③定数は地震では示しているが水害でも出す。④まず命を守ることが大切。避難が長期化した場合できるだけ配慮を行う。⑤地震時はペットは校庭にとまっている。ある程度のルールをつくる。⑥電動車いすなどは給食用エレベーターの使用を検討する。

見通しのある治水対策こそ急いで実施を

治水のあり方について、区長は「流域全体で考えることが必要。すべての治水の取り組みが重要で、スーパー堤防もそのうちの一つ」などと答弁しました。

台風19号で、中流部の貯水池（調節池）などは有効に機能しましたが、全国で71河川140ヵ所の堤防が決壊。完成する見通しのないスーパー堤防ではなく、こうした整備が遅れ、危険性も指摘されている箇所、『耐越水堤防』など有効な強化策を優先して実施すること、区内においては下水などが逆流する内水氾濫への対策をさらに強化することを求めました。



「耐越水堤防」の構造の一例